

くまのもの——隈研吾とさまざまな物質、かたる物質
Kengo Kuma: a LAB for materials

2018年3月3日|土| — 5月6日|日|

開館時間 | 10時—18時(金曜日は20時まで 入館は閉館30分前まで)

休館日 | 4月30日をのぞく月曜日

入館料 | 一般1,100(900)円 / 高校・大学生900(700)円 / 中学生以下無料

* ()内は前売料金[2月2日—3月2日販売]

* 20名以上の団体は、一般800円、高校・大学600円

* 障がい者手帳等持参の方は100円引き(介添者1名は無料)

主催 | 東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]、

隈研吾建築都市設計事務所

協賛 | 大成建設株式会社、株式会社丹青社、株式会社長谷工コーポレーション、

株式会社安藤・間、株式会社イトーキ、株式会社大林組、鹿島建設株式会社、コクヨ株式会社、

越井木材工業株式会社、小松精練株式会社、株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所、

清水建設株式会社、住友林業株式会社、セントラル硝子株式会社、大光電機株式会社、

太陽工業株式会社、大和リース株式会社、株式会社竹中工務店、東急建設株式会社、

TOTO株式会社、戸田建設株式会社、ナイス株式会社、株式会社乃村工藝社、不二サッシ株式会社、

文化シャッター株式会社、前田建設工業株式会社、三井住友建設株式会社、株式会社LIXIL

協力 | 株式会社新建築社

KENGO
STATION

KUMA
GALLERY

もう一度、様々な物質と、いきいきとした会話を始めよう——。

国内外で膨大なプロジェクトを抱えつつ疾走する世界的建築家、隈研吾(1954〜)。古今東西の思想に精通し、「負ける建築」「自然な建築」などの理念を実践してきた約30年に及ぶプロジェクトを集大成して展観します。本展では特に、隈が仕事を通じて対話を重ねてきた素材に着目し、建築設計やプロダクトデザインなどの蓄積を、時系列ではなく主要なマテリアル(竹、木、紙、石、土など)ごとに分類・整理することで、“もの”という観点から概観を試みます。“もの”の開放によって、人の感覚や意識、そして環境を媒介する建築の可能性に迫ります。

建築とは、結局のところ物質である。物質と人間との会話である。世界という得体のしれない大ききなるものが、物質という具体的存在を通じて、人間と会話するのである。物質が違くと、会話の仕方も変わり、こちらの気分も大いに変わってくる。20世紀は、コンクリートのせいで、会話は固くなり、人間の表情もずいぶん暗くなった。

もう一度、様々な物質と、いきいきとした会話を始めよう。

—— 隈研吾

関連イベント

隈研吾建築ツアー

都内の主要な隈研吾建築を廻ります。

日程や申込方法など詳細は美術館HP、Facebookでお知らせします。

朝の鑑賞会[学芸員による開館前のギャラリートーク]

3/22[木]、4/18[水] 9:30—(約30分)

1階エントランス集合/参加無料[別途要入館料] 定員25名

事前申込制。3/3以降の開館時間中に当館まで電話(03-3212-2485)でお申込みください。

定員になり次第受付は終了いたします。

レンガ・タッチ&トーク[煉瓦が特徴的な当館のたてもの解説]

3/30[金]、4/13[金] 17:00—(約30分)

1階エントランス集合/参加無料[別途要入館料] 定員15名

当館1階受付でお申込みください。

東京駅周辺美術館学生無料ウィーク

3/3[土]—3/18[日]

受付にて学生証提示で入館料が無料。

前売券:入館料の200円引。ローソンチケット(Lコード=36999)、イープラス、CNプレイガイド、セブンチケットで2月2日から3月2日まで販売。

当館受付での販売は、2月2日から2月12日の開館日(閉館30分前まで)に限ります。

▪次回展 夢二繚乱 5/19[土]—7/1[日]

〒100-0005

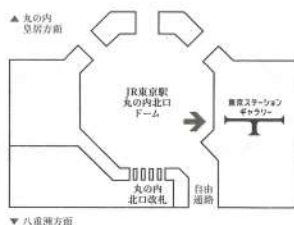
東京都千代田区丸の内1-9-1

Tel 03-3212-2485

<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

交通:JR東京駅

丸の内北口改札前



中国美术学院民艺博物馆 2015 Photo: Eiichi Kano



COEDA HOUSE 2017 Photo: Kawasumi・Kobayashi Kenji Photograph Office



ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム ダンディ 2018 Photo: Maurizio Mucciola



小松精練ファブリックラボラトリー fa-bo 2013 Photo: Takumi Ota